

C・B・Cの生活

男子寮のこえ

主の召を受け、希望に溢れた若人が今年も4名、男子寮に入寮してきました。三月にはひっそりとして淋しかったこの寮も、今は活気を取り戻し、新しい空気がみなぎっています。

今年の男子の入学者は5名で、その内一人が通学生です。新入生を加えて、男子寮では現在10名の学生が寮生活をしています。入学当初は、緊張して何かきこえない感じのした新入生も、一ヶ月もすると、ほとんど寮生活になじんできています。新入生に感想を聞いてみますと、皆一様に「寮は楽しいですねえ」という声が返ってきました。想像していたよりも人間味があつて親しみやすいのです。学びの面でも、充実して恵まれているようですが、「レポート・宿題がよく出ます」と苦笑していた学生もいました。また新体制についての感想を聞いてみますと、「私達は四年制の第一期生になる訳ですから、やはり責任を感じます。後輩の良き模範にならなければと思います。一生懸命頑張りますよ」という答え。明るい笑顔で答える新入生の言葉は、実に爽やかそのものでした。

先輩達の暖かい配慮に包まれて、今年の新入生も生き生きと寮生活を続けています。「この神学校生活で、明確なビジョンを握りたい」と語る彼らの目は、四年後の第一線に立つ日を仰ぎ見ているかのようです。その日を待たずして、祈りに、学びに、精をだしている新入生達を、神は豊かに祝して下さるでしょう。



女子寮のこえ

「優しい先輩たちに迎えられて、C・B・Cの寮生活は、思ったよりもずっと楽しいものです」というのが四月に入寮したAさんの感想です。ここ駒込山の女子寮の生活は新学期から総員十三名で、その華やかさは、今を盛り咲き香う、季節の草花にも劣りません。

これからこの学校で四年間の生活を送る新入生も、早や一月になる生活にやつと落付きを見せてきました。B姉妹は「封建的で厳しい学校生活、寮生活を覚悟して来ましたが、意外と自由でのびのびしています」と感想をもらっています。「しかし、その自由の中で自分を打ちつことをおぼえていかなければ」とも付け加えています。またその反対な感じを受けたCさんの声もあります。「あまりにも細かいことにまで気を配らなければならぬのに驚きました」。この人は初めての共同生活に最初はかなり気を使つたに違いないかもしれません。でも、もう大分生活が板についてきております。「もつと時間のゆとりがある所かと思っていました」というDさんは、最初は「宿題に追われて青息吐息」でした。寮から教室、それから図書館に祈祷室と常に動いていなければならぬからです。(それに食堂も忘れずに)「どうしたら右手と左手が一語に動くのかしら」と言うのはオルガンの練習に極度の抵抗を覚える人です。先生に優しく励まされると「人一倍練習しなければ」とやる気一杯で頑張っています。この四年間、全ての面で訓練されて主に用いられる器になりたいというのが全女子寮の住人たちの声です。

中央聖書学校 活動報告

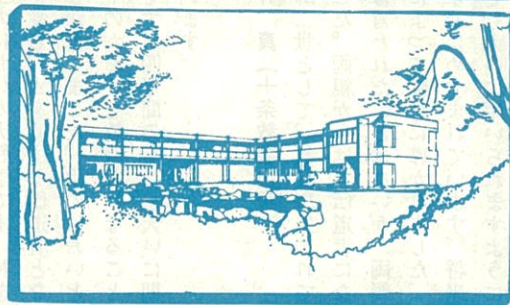
校後援会の

「昨年中に八十万円の献金を学校に献げることができて感謝です」これが去る一月二十四日の役員会の第一声でした。しかし、「会員の方々は、今後継続して献げて下さるだろうか。」「もちろん、そのつもりだと思えます。」など名簿を見ながら協議がありました。四月七日の本会総会での発表によると会員数は、個人が百三十五名、二十十二口、法人は十九で四八口になっております。新年度の方針は図書費献金を含む百二十万円の募金目標が確認されました。

編集子のこぼ

四月に新入生を迎え、生活取材しているうちに五月の声を聞いてしまいました。今回はこれを中心におとどけたいします。

発行・一九七八年五月二十五日
事務局・〒三三三(九八)四九二五
東京都豊島区駒込二二五二三
中央聖書学校内
編集者・佐布正義

中央聖書学校
〈C・B・C〉だより

中央聖書学の目標

主イエスに習う

本年度の新入生を加えて総員二十五名となった学生に対して、弓山喜代馬校長は、本校の教育のあり方を次のように述べました。

「聖書学校教育の方針は、何をさておいても、学生ひとりひとりが主イエス・キリストの弟子となり切ることであり、イエスのご性格を身につけることである。主イエスの姿に似るといふことは、聖書の中に示されている主のご性格を学び、身につけることである。主イエスはまず、キリストとして神に油注がれた人であった。常に聖霊に満たされた人である。次に主は祈りの人であった。



であった。そして徹底して神の御旨である福音(よきおとずれ)の伝達者であり、父の御旨

に従順であられた。また、主イエスは聖書(旧約)に通じたお方であった。この主イエスの姿こそわたしたちの教育の目標である」

(S)

新しい舎監

は語る

本年度から四年生となったC・B・Cに最初の専任舎監の仕事に着任した上原和雄師は次のように語っています。

「高知県の中村から、引き出されて突然、舎監の重責を荷わされることになって、責任を感じています。現在の社会情勢に応じて四年生になったのですから、知的レベルの向上を目指すことは当然ですが、それに伴う霊性と生活面の訓練が不可欠です。わたしのようなのが、この任に当たるといふこ

とは、大変な重荷ですが、もとより訓練をして下さるのは主イエスご自身ですから、わたしも主に委ねて奉任にたずさわっていきたいと思います。しかし、立場上(学生に最も近くあることが出来る)というのは、感謝なことですが、共に祈り、チャペルを行い、あるいは、相談に應ずるといふような最も基本的な面で、学生と接していきたいと思えます。共同生活で養うことの出来る一面は、将来牧師となつて不可欠な(常職的社會人としての人格形成)ではないかと思えます。最近の学生は年令も若く、社会の機構の中で厳しい人間関係を経験していないようですから、一般の見識や洞察力や、人格形成の面での助言が必要だと思えます。そこで、教室で受持つ課題以外の働きが要求されています。

こうした大変重要な仕事にたずさわるものですから、全国諸教会や諸先輩、同僚者の助言が必要です。」

こうして、新しい舎監は、ペンテコステ信仰と祈りの生活や、伝道の実戦面で学生と一語になつて活動しています。

また、作業や、規律ある寮生活にも、意欲的にとりくんでいます。

新入生の横顔

楠橋清隆（岡山神召教会出身）

四国は伊予の今治に生まれ育ちました。法律家を目指して岡山に出て学びました。勉学に挫折していた大学二年の時にキリストに導かれ、人生の真の目的を知り、この恵みをすべての人に伝える者となることを決意して献身しました。

土屋 潔（杉田伝道所出身）

新潟生まれの神奈川育ち。幼少の頃から土のにおいが好きです。神を愛し、人を愛し、土を愛する伝道者となりたいたと決意しました。土のにおいとキリストのにおいを放つ者になることが願いです。四年間の学びを大いに期待しています。

細井 真（十条教会出身）

牧師二世として、教会に生まれて育ちました。両親からは「伝道者になれ」とは言われたことはないが、両親の祈りによって献身に導かれました。音楽的才能にめぐまれています。将来その面でも大いに用いられますように。

松下和弘（日基・赤坂氷川教会出身）

日本キリスト教団からの献身者として異色の存在です。聖霊のバプテスマの恵みにあずかり、さらに霊の恵みを深く学び、伝える者となるために献身しました。夫人もまた聴講生として学んでいる献身一家です。

村上 密（熊本聖書教会出身）

名前はひそかだが、いたって外向的な性格の持ち主です。主イエスから受けた恵みをひそかに秘蔵することができず、万人に対してこの福音を証しする者になりたいというのが願いです。

愛敬晴代（十条教会出身）

東京生まれの東京育ちです。根っからの都会っ子で性格は明るく、楽天主でみんなから愛されるタイプです。名前は少し変わっているのですが、一度聞いたら決して忘れられません。神を愛し、敬う者となるのが目標です。

浅野喜代子（仙台神召教会出身）

東北 田舎で生まれ、育った純東北

産で、「ササニシキ」のような味の持ち主です。からだは小さいが大きな信仰と農村で鍛えた足をもっています。良きおとずれを伝え、さらに美しい足となるのが念願です。

大谷明子（十条教会出身）

四国の吉野川中流の大自然に囲まれて成長し、高校を出てからは保母を目指



前列左から

李姉・沼倉姉・大谷姉・愛敬姉・田原姉・浅野姉

松下（聴講生）姉

後列左から

村上兄・松下兄・土屋兄
細井兄・兄

もまず出発点となります。それを土台として、他の本を読んだ時にまた新しい知識や理解が与えられてゆき、そのようにして積み上げて行けばよいわけです。いわばこの毎週のテキスト精読とそこからのテストは、家を建てる場合の基礎工事のようなものと云えます。

あるクラスでは、デイスカッションと講義の両方で授業が進められていました。これは「旧約概論」のクラスで、丁度、「創世記」の学びがはじまったばかりでしたが、学生たちはあらかじめ創世記を何度も読んで、その主題、大まかなアウト・ライン、特徴、或いは興味あることとして気がついた事柄などを考えておくようにとの宿題が出されていましたので、それを中心に学生たちが意見を話し合っており、後で教師がそれをまとめながら要点を説明していただきました。「大体二時間で一書を終えるペースで、一年かかって旧約聖書全巻を概観できればと思っています」との事でした。

今年度入学者から四年制聖書学校に移行することになり、それにもなつて学的水準の向上も求められており、一時間の教室での授業につき一時間から二時間の予習・復習を教師側は望んでいます。従って、レポート、ノート提出、読書レポート等々いろいろな形

してさらに勉学を続けてきました。郷里では、大ボケ・小ボケという勝景で有名ですが、神様が美事なボケの花を咲かせて下さるのを期待しています。

田原けい子（糸満フォースクエア教会出身）

南国沖縄からの献身者で、最年少です。持ち前の明るさは、つねに周囲の人々をたのしませてくれます。南国のハイビスカスのようにキリストによって美しく咲いた花となつて、人々の恵みになりたいと思います。

沼倉文枝（仙台神召教会出身）

からだは大きいですが、きわめてやさしく、目立たない存在でしたが、キリストに見い出されてついに献身しました。人生の谷間にあえぐ人々に慰めを与える百合の花のようになつて、かぐわしいかおりを放つ者になりたいと思います。

李 鳳姫（赤坂国際教会出身）

大学が四つ目という勉強好きで、学ぶために生まれてきたという表現がピッタリです。お茶ノ水女子大の大学院では国文学を専攻しました。しかし、ここC・B・Cに來てはじめて「本当の学びはここにある」と、真に満足を得ています。

式の宿題が出されていて、学生たちも大変なのですが、「神の言のよき管理者となるために頑張つてほしい」と教師たちは願いながら、心を鬼にしてシゴキ役にまわっています（教師も大変なんだヨ）。

教師のタイプも種々様々です。談論風発と申しましようか、その深い知識と経験の中から、何がとび出してくるのか又どこに脱線して行くのかわからないといった、一回一回が実に楽しみで味わい深い授業をされるベテランの先生もおれば、冗談もいわず脱線もせず、駒込の誇る六義園や古河庭園での出張授業などは更々考えたことはない真面目一本槍の先生もおられるようです。ほとんどの先生方は直接の牧会にもたずさわっておられるので、単なる学問に逼った学びに終わるのではなく、「霊調高い、そして深い御言の説きあかしに、時には感銘の涙することもある」とある学生は語っています。

感謝なことに、更に今学期から、内村公義（哲学・教会史）、上原和雄（個人伝道法）、マーガレット・カロー（ローマ書）の三人の先生方を新しく教師陣に迎えて、中央聖書学校の各教室では増々白熱した授業が続けられて行くでしょう。学生シッカリ、先生ガンバレ。

学習風景

今日は各クラスを訪問して
学習風景を報告しましょう

聖書学校は未来の牧師・伝道者の（学び）と（訓練）の場ということが出来ます。訓練は寮生活を中心とした規律ある集団生活を通してなされています。特に今年度からは、四国・高知県の中村福音教会で九年間牧会



聖書学校は未来の牧師・伝道者の（学び）と（訓練）の場ということが出来ます。訓練は寮生活を中心とした規律ある集団生活を通してなされています。特に今年度からは、四国・高知県の中村福音教会で九年間牧会

を訪ねて 神学生たちの真剣な学びの様子をお伝えしましょう。

教師が教室に入ってくると、学生は一斉に立ち上ります。級長の「起立、礼！」の号令ではじまった何十年か昔の小学校の授業風景を思い出させるような光景ですが、そのようにして先づ、神への（祈り）と時には（賛美と祈り）をもって各クラスの学びが始まります。これは今も昔もかわりない聖書学校の授業風景ですが、神の（祝福）と（助け）を、一回一回のクラスにおいて祈られなければならないのは当然でありましょう。

あるクラスでは、クイズ形式の簡単なテストから授業が開始されています。聞くところによれば、ほとんど毎クラスごとに、このようなテストがあるという事です。学生は毎週定められたページ数に従ってテキストを読んできて、その中からテストを受けるのです。これについて担当教師は次のように語っています。「何の場合もそうですが、特に基礎的な学びにおいては、まず適当な一冊のテキストを選んでそれをある程度マスターすることが必要だと思えます。テキストを精読したり必要なことを覚えたりして、その分野に関する基礎的な知識を身につけ、又その分野で論議されている必要な問題点などを理解することは、何を学ぶに